

単収確保に向けて 《第四弾》

4月中は、気温が平年より高かったり低かったりと、不安定な天候の日が多く、非常に難しい育苗管理となりました。

5月に入ってから、好天の日が多く田植え作業も順調に進んでおります。

◎今後の水管理について

○安定生産をするために、水管理については次の点についてご注意願います。

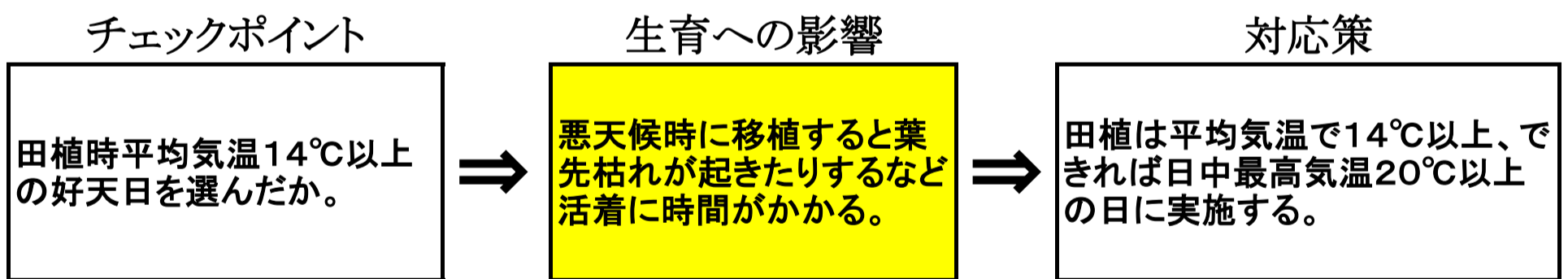
- ・移植後は第1節、第2節の1次分げつの発生を抑制するために深水管理とし、その後浅水管理に切り換えます。

水管理の例	深水 7cm~10cm程度		浅水管理で分げつ促進		深水管理 理想は15cmの水深
	生育ステージ	移植	5葉期	8.5葉期	9.5葉期
月日(目安)	5月15日	5月25日	6月20日	6月30日	

◎すでに田植作業を終えている生産者もおりますが、これから作業を作業を行う生産者については、次の点について注意願います。

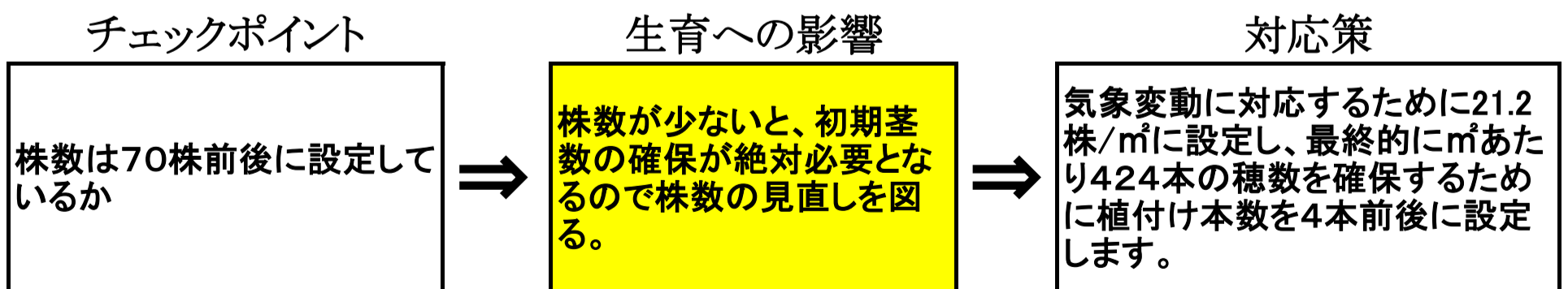
○早期に活着させるために好天日に田植をしよう！

- ・悪天候時に無理に田植作業を行うとその後の活着に時間がかかり、初期生育の確保にも影響がでます。又、葉先枯れ等の症状が起きる場合もありますので、好天時に田植作業を行いましょう。



◎安定した初期茎数を確保するために、70株前後を確保しよう！

- 株数が少ないと初期茎数の確保に難儀する場合がありますので、70株(21.2)前後を推奨します。
- 強勢茎で確保できる茎数は、70株植えて㎡あたり424本となるので、4本植えが理想となります。



単収確保に向けた重点実施事項

チェックポイントを点検し
該当する対応策を実施しましょう。